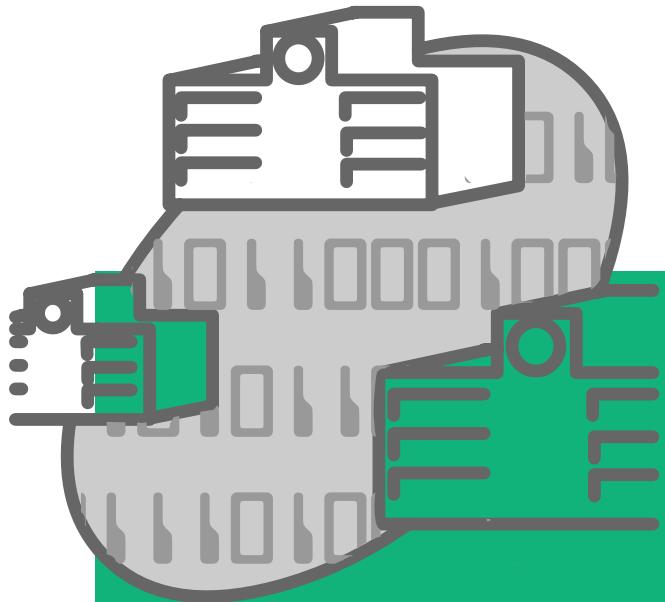


第7章

学校では今



第7章 学校では今

1. 新しい教育へ

1998年12月に小学校と中学校の学習指導要領が、99年3月に高等学校の学習指導要領が告示されました。新学習指導要領は小学校と中学校では2002年度から、高等学校では2003年度から学年進行により、また盲・聾・養護学校については各学校段階に準じてそれぞれ実施されます。小・中・高等学校の学習指導要領の総則には、「各教科等の指導に当たっては、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用する学習活動を充実するとともに、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る」ことが明記されています。具体的にどうなるのでしょうか。

小・中・高等学校を通して「総合的な学習」の時間が設定されます。この学習では、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な



「先生、海中から授業 教室へネット生中継」
読売新聞 99.9.30 朝刊より

課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行います。「総合的な学習」には教科書がありません。コンピュータが力を発揮します。インターネットを通して様々な情報を入手し、デジタルカメラなどで自分の住んでいる地域を取材し、コンピュータを活用してまとめ、それをもとに報告・発表・討論などの学習をしていくのです。先進的な学校ではすでに「総合的な学習」

を実践しています。新聞記事にあるように、インターネットを使って海中映像を教室に生中継し、海の環境について学ぶ学習が岩手県の三陸海岸と盛岡、水沢の5小学校を結んで行われています。また、大阪教育大学教育学部附属平野小学校では、オーストラリアのマニングハムパーク小学校との交流を通して異文化理解や関わり方を学んでいます。「ビデオで伝えよう」「手紙を送ろう」「実物を送ろう」「テレビ会議で伝えよう」「インターネットで伝えよう」という学習課程の中で、テレビ会議は、「子どもの日」「七夕」「スポーツ」「クリスマス」などのテーマで1SDN回線を利用して行っています。



テレビ会議
(マニングハムパーク小学校とテレビ会議をする
大阪教育大学教育学部附属平野小学校の子どもたち)

2000年4月からの移行期間でも「総合的な学習」は実施できますので、新聞記事にあるようなユニークな実践が各地でますます起つてくるでしょう。

中学校において技術・家庭科で「情報とコンピュータ」が必修になり、高等学校の普通教科で「情報」が新設されます。「情報A」「情報B」「情報C」(各2単位)から1科目を選択必修することになります。

2001年度までに小・中・高等学校、盲・聾・養護学校のすべての学校をインターネットに接続し、積極的活用を推進していく予定です。インターネット利用にかかる通信費、インターネット利用料等は地方交付税により措置されます。これからの中学校教育においては、様々な学習でコンピュータ等を積極的活用することが必要となってくるのです。